

『Tsuku-場 第20回イブニング・レクチャー』アンケート集計結果

◆多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。簡単ではありますがアンケートを以下のようにまとめました。

- ・日時：2026年3月12日（木）19:00～20:30
- ・場所：オンライン開催
- ・内容：働く私、育てる私 —多重役割で揺れ動く正規職母親の心理プロセスを追う—
- ・講師：持田 聖子 氏(アデコ株式会社 Social Impact Work Lab 主任研究員)

◆参加状況

申し込み人数	参加者	アンケート回収数
77	58	31

◆満足度について

とても高い	高い	普通	低い	とても低い	未記入	計
22	8	1	0	0	0	31

◆アンケートに書かれたコメントの中からいくつか抜粋しました。

- ・研究者の研究への想いや、様々なご苦勞を直接お聞きすることができ、貴重な学びを得ることができました。
- ・働く母親の多重役割は、人生の充実につながることで、多くの母親への最大のエールになるのだと、励みをいただきました。
- ・働く母親はたいへんであるというだけでなく、得るものも多くあるということに勇気づけられる方は多いのではないかと思います。職場の女性を勇気づけられそうです。
- ・多重役割による充実感（ワーク・ファミリー・エンリッチメント）という、働く母親に明るい展望がもてる概念を知ることができて、嬉しかったです。また、子供の成長に伴い、母親の幸福感が増していく感じももっていたので、まさにばたく白鳥のような心地であり、爽りといえるでしょう。
- ・わが子の不登校を経験した働く母親の支援（NPO）および研究（大学院）をしております。エンリッチメントの視点は常に持ちたいと思いつつ、なかなかそれを組織内で共有する機会がないので、このような形でコンフリクト・エンリッチメント、そして爽りという概念をご共有いただけたことがまず支援の土台になると感じました。
- ・私は支援職のため、子どもの時間を優先し就業形態を変えて非常勤、フリーランスで乗り越えてきました。それでもキャリア構築と子どもへの負担では？という葛藤は本当に何度も何度も波のように襲ってきます。一方そのなかで職業人としても人としても成長できている実感もまた持っているのも事実で、子どもにも自分にも良い形をとれるように日々鍛錬と感じています。
- ・ワーキングマザーになって身に付いたコンピテンシーの紹介として、タイムマネジメントやマルチタスクをあげられていましたが、私自身も夫として父親として同様の経験をしています。（～中略～）また、5月には育児休業から復職する女性職員がいるので、復職前の不安や復帰後の両立への支援に繋げていきたいです。
- ・仕事と子育ての両立の大変さの解像度が上がりました。また、両立を軌道に乗せる段階と発展させる段階に分ける視点は、就業継続を希望しつつも、両立に悩む子育て中の社員への組織としての支援を考える際の参考になります。
- ・子育てと仕事の両立をしながら走ってきた30代、40代のことを思い出しました。私もキャリア研修などで働く先輩お母さんの体験談を聞きましたが、それを学術的に質的研究、量的研究の二つの研究をされたことで、感じていたことを形にした素晴らしい研究だと思いました。社会人大学院ならではの社会貢献のための意義の有る研究であるとも感じました。
- ・研究の方法(M-GTA)や資料のまとめ方から多くの学びがありました。
- ・教育の現場で子ども、保護者と接しますが、現代の働く保護者の立場になって考えることができる貴重な機会となりました。
- ・「ワーキングマザー」という言葉は少し古く感じた、というお話が印象に残りました。「共同育児（コペアレンティング）」や「ワーキングペアレンツ」といった言葉ははじめてきました。
- ・子育てに限らず、働く人はそれぞれの背景を抱えていると思いますので、広い意味で多くの働く人に対しても意義のある研究だと感じました。